



やまと共創郷育センター NEWSLETTER

2020年春号

平成27年12月にスタートした「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、令和元年度末を以て5年間の補助期間が終了します。やまと共創郷育センターでは、5年間で構築した事業協働機関とのネットワークを継続活用し、令和2年度も引き続き地域人材の育成に取り組んでいきます。事業協働機関ならびに学内教職員の皆さまにおかれましては、引き続き当センターの活動へのご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

令和元年度COC+シンポジウムを開催

12月5日、記念館において奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学の3校による「令和元年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)シンポジウム～奈良の地方創生 その先へ～」を開催しました。当日は、協働自治体である奈良県の他、県内自治体及び企業関係者ら95名の参加がありました。

シンポジウムは、今岡春樹学長による開会挨拶及び事業協働機関である奈良県地域振興部次長 谷垣裕子氏による来賓祝辞に続き、第1部 やまと共創郷育センター成瀬九美センター長からの総括報告、COC+3校から各校の取組成果報告が行われました。

休憩時間を利用した3校取り組み紹介のパネルセッションをはさみ、第2部では、やまと共創郷育センターCOC+コーディネーターである前川光正特任教授のファシリテートのもと、奈良県産業・雇用政策課主幹 市橋寿人氏、株式会社人材ニュース代表取締役 廣橋隆氏、佐藤薬品工業株式会社 河上瑞穂様(本学OG、H30年度修了)をお迎えし、3校から学生もパネリストとして登壇し、「『やまと再構築プロジェクト』がもたらしたもの」と題してパネルディスカッションが行われました。パネラーからは、「学生は、企業にやりがいと働き甲斐を求めており、県内・県外といった垣根はない」、「会社の雰囲気が一番大切だ」、「県内企業からの学生への発信力が十分でない」といった発言がありました。参加者からは、「今後もCOC+活動を続けていただきたい」、「企業としての発信力を強める必要があることがわかった」、「奈良で働くことへの学生の意識が聞けて良かった」といった感想がありました。

今回のシンポジウムを通じて、COC+事業によって構築された産学官連携のネットワーク(つながり)を生かし、企業と学生との交流の場となるプラットフォームの役割を継続発展させていく重要性を再認識しました。



後期開講 地域志向科目「なら学+（プラス）」

地域志向科目の1つである「なら学+（プラス）」(教養教育科目)を開講し、今年度は全学部・全回生から217名の学生が受講しました。

この授業では、COC+参加大学、県内自治体・県内企業から多彩なゲストスピーカーを迎え、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶことによって、問題解決力、提案力を養い、未来の地域リーダーの育成を目指しています。1コマ90分の授業に、行政・民間双方からゲスト講師を招いて、多面的なモノの見方を促し、また授業冒頭には、前回授業の受講生感想と、講師からのコメントをもとに振り返りを行い、奈良の課題について多様な他者と学ぶ授業構成としています。

本科目の最終レポート「奈良への提案」では、受講学生から奈良に関する様々な提案があり、令和2年1月20日に学内で開催された奈良経済同友会との交流・懇談会にて提案プランの一部を紹介し、県内企業関係者からコメントをいただきました。本提案プランについては、今後奈良県ならびに一般財団法人南都経済研究所による審査を行い、優秀プランを選出し、その提案者に対し、奈良の歴史伝統観光産業といった礎をさらに発展させる『なら』いにしえ賞と、新たな奈良の未来を創生する『なら』みらい賞としてそれぞれ表彰する予定です。

令和元年度「なら学+（プラス）」授業内容

回	授業内容	ゲスト講師
1	ガイダンス	担当教員・やまと共創郷育センター
2	“なら”でのコンテンツツーリズム ～観光のニーズとその課題～	奈良県立大学 (一社)吉野ビジターズビューロー
3	観光産業への理解を深め、課題を探る	(公社)奈良市観光協会・(一社)飛鳥観光協会
4	女性の多様な生き方・働き方を考える	奈良県福祉医療部こども・女性局女性活躍推進課 チアフル株
5	伝統・地場産業(製薬)への理解を深め、課題を探る	奈良県薬事研究センター・佐藤薬品工業株
6	奈良の食育・栄養を考える	株池利・名阪食品株
7	奈良の特産品(柿)を通じたマーケティングを考える	奈良県農林部マーケティング課・(株)マックス
8	伝統産業(林業)への理解を深め、課題を探る	奈良県森林技術センター・(株)イムラ
9	地場産業への理解を深め、課題を探る	河村繊維株・国広産業株
10	奈良の現代産業に聞く	(株)ATOON・DMG森精機株
11	地方自治体の役割・課題を探る	奈良県地域振興部・下市町総務課
12	生活福祉を考える	奈良佐保短期大学生生活未来科 奈良県社会福祉協議会
13	これからの地域社会と科学・技術の関係を考える	奈良工業高等専門学校
14	「課題発見・問題解決・提案力を養う」その1 昨年度提案プラン紹介とプランニング講演	担当教員・(一財)南都経済研究所
15	「課題発見・問題解決・提案力を養う」その2 学生による地域活動事例発表と「奈良への提案」の 発展応用ならびに振り返りレポート	担当教員・やまと共創郷育センター

令和元年度後期のCOC+事業の取組状況

◆奈良県奈良しごとセンターによる「出張キャリア相談コーナー」(6月～3月)

COC+事業協働機関である奈良県奈良しごとセンター協力のもと、令和元年6月より令和2年3月に亘り、原則毎月第1・第3金曜日の午後、学内に出張キャリア相談コーナーを開設しました。相談コーナーは、大学会館2階の学生談話スペースの一角に設け、予約不要で気軽に訪問できるようにしました。

出張キャリア相談では、「県内企業紹介」、「エントリーシート添削」等、就職活動に関する様々な相談をはじめ、奈良県内企業や自治体で勤務する本学OGを招いてミニ座談会を開催するなど、学生の奈良県内での就職活動を後押ししました。来年度も引き続き開設予定です。



◆COC+関連科目「キャリアデザイン・ゼミナールB(52) 『鹿と木 マルシェ』(12月7日)

「キャリアデザイン・ゼミナールB(52)奈良の木 造形演習」の成果発表の場として、地域の方や本科目を受講していない学生に奈良の木の魅力を伝えることを目的に開催されました。受講学生たちは、十津川村特産の杉と檜を素材とした商品づくりから、イベント名やロゴの考案、広報、会場デザインを企画してきました。4回目の開催となったマルシェ当日は、地域の幼稚園の親子連れから年配の方まで幅広い年齢層の方が来場し、木の素材に触れながら、思い思いに作品づくりを楽しみ、大変好評でした。受講学生たちは、木の素材を知り木のある暮らしへの理解を深めるための体験と実践を通して、作る楽しさや喜びを他の人々と共有し、主体的に地域の課題解決に関わる力を身につけることが出来ました。



◆「令和元年度奈良県内大学生による学習等支援事業成果報告会」(12月12日)

奈良商工会議所大ホールにて、奈良県内大学生による学習等支援事業成果報告会が開催されました。これは、本学学生グループの「野迫川村奈良女塾」の取り組みをもとに、「県内大学生が創る奈良の未来事業」政策提案コンペにおいて、優秀賞を受賞した「女子大塾～女子大生による県南部学習支援～」が事業化されたもので、今年度は県内7市町村の小学校・中学校に、本学を含む県内6大学から延べ140名がボランティアとして参加し、学習支援やレクリエーション等様々な活動を行いました。



今回の成果報告会は、事業に携わる支援センターの本学学生4名が中心となって運営を行い、関係市町村教育委員会や大学関係者を招いて、今年度の活動事例発表、大学生の指導を受けた小・中学生によるアンケートの結果報告、事業継続に向けた意見交換がなされた後、奈良県教育委員会から活動学生35名に向けて「活動証明書」が授与されました。

◆COC+3校合同「県内企業見学会」(2月14日)

学生の地元定着促進に向け、奈良県雇用政策課主催によるCOC+3校合同「県内企業見学会」を開催しました。当日は、3校の学生28名が参加し、2コースに分かれて3社ずつ訪問しました。学生たちは企業見学や社員の方々と質疑応答を行うなどの交流を深めることができ、実際にものづくり現場を体験することで県内企業の魅力を発見する良い機会となりました。

Aコース:(株)伊藤金属製作所、(株)ヒラノテクシード、ニチアス(株)王寺工場

Bコース:三笠産業(株)、西垣靴下(株)、梅乃宿酒造(株)

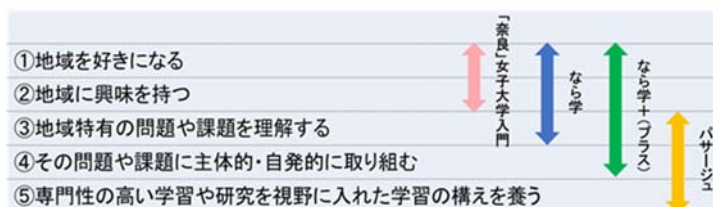


◆COC+3校間の相互講師派遣に関する覚書締結 (3月2日)

本学と奈良工業高等専門学校・奈良県立大学は、各機関における地域への興味・関心を涵養する授業の実施に際し、教育研究交流促進の一環として相互に講師の派遣を行ってきました。COC+事業終了後も、今までと同様に各機関での学びを共有するため、「地域への興味・関心を涵養する授業の相互講師派遣に関する覚書」を締結しました。

地域志向科目の必修化と地域志向教育プログラムの確立

今年度は地域志向科目を19科目開講し、文学部、理学部、生活環境学部の各学部規程に地域志向科目を明確に位置づけ、令和元年度入学生からの全学必修化を実現しました。これにより、本学に入学する学生は全員が卒業までに地域への興味・関心を涵養する科目を履修することとなります。また、「奈良を知る・奈良で就職」をテーマに盛り込んだ『奈良』女子大学入門』ならびに「なら学」を地方創生理解科目、「なら学+（プラス）」をPBL型科目とする初年次における地域志向教育プログラムを確立しました。



ビジネスプランコンテストにて「審査員特別賞」を受賞

アントレプレナー意識の涵養とプレゼンテーション能力の向上を目指し、「キャリアデザイン・ゼミナールC(5)『ビジネスプラン』の作り方～アイデアだけでは終わらせない！～」を今年度開講しました。その受講学生である生活環境学部4回生の須川真奈江さんが、第5回橿原ビジネスプランコンテストに応募し、見事「審査員特別賞」を受賞されました。



須川さんの「趣味で収入を！今からでも簡単にできる手芸教室」と題したビジネスプランは、趣味で行われている手芸教室をハンドメイドアプリにて販売代行も行うもので、趣味の世界から社会との交流の場に発展させ、また、収入も得ることが出来るという実現可能性も高く、地域への貢献度も高いプランで、審査委員からもその有用性が高く評価されました。

－ 来年度以降の取組 －

COC+事業は今年度を以て終了となりますが、やまと共創郷育センターでは令和2年度も今までの活動を通じて構築した県内企業・自治体・教育機関等とのネットワークを最大限に活用し、以下のとおり活動していく予定です。

【教育支援】

県内企業・自治体から実務家を招聘して地域志向科目を引き続き開講します。奈良県南部に設置したサテライト施設についても引き続きPBL授業での活用を予定し、学生の地域への興味・関心の涵養を目指します。

【就職支援】

学内にて県内企業、自治体が集う業界研究会(セミナー)、県内企業に就職したOGとの交流会を開催し、学生の地元定着支援を進めます。また、バス等による県内企業見学会を実施し、地域産業・地域経済に対する理解、地元企業の魅力を伝えるとともに、学生と県内企業との距離を縮めることを目指します。

【成果の社会的還元】

COC+事業で構築された県内企業、自治体とのネットワークの充実をはかるとともに、学生との交流、産学連携プロジェクトの推進、共同研究など奈良県経済団体との連携を深め、個別ニーズに応じたマッチングを強化し、新たな社会的価値の創造に努めます。



奈良女子大学 やまと共創郷育センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学コラボレーションセンター1階
TEL 0742-20-3989 FAX 0742-20-3993 Email: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp